

令和3年度 こころ医療福祉専門学校 学校自己評価結果報告書

令和4年4月1日

※学校自己評価作成の経緯

令和4年1月28日（金）令和3年度学生・教職員アンケート実施
令和4年2月28日（月）令和3年度学校自己評価報告書 運営会議提出
令和4年3月14日（月）令和4年度学校経営目標 運営会議議題提出
令和4年3月16日（水）令和3年度第11回職員会議提出
令和4年3月23日（水）学校自己評価報告書 本部提出

※教職員・学生アンケートと学校自己評価との連動基準

教職員・学生アンケート評価基準3.1～4.0 → 学校自己評価「4」
教職員・学生アンケート評価基準2.1～3.0 → 学校自己評価「3」
教職員・学生アンケート評価基準1.1～2.0 → 学校自己評価「2」

文部科学省・専修学校における学校評価ガイドライン
（平成25年）準拠

1. 学校の教育目標 令和3年度

- 1 ビジョン
地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる
- 2 ビジョンの実現に向けたテーマ
地域社会から必要とされる組織であり続ける
地域社会から必要とされる人材を提供する
- 3 学校経営スローガン 各学科の「専門力を含めた人間としての総合力」の育成
- 4 重点教育目標
 - (1)「授業の充実」を中心に置いた学校経営の推進
 - (2)国家試験合格率及び就職率100%達成
 - (3)留学生指導の質の向上とJLPT4級以上全員合格の達成
 - (4)「委員会制」の充実による学校活性化と人材育成
 - (5)学校体制として取り組む学生募集-最低確保学生数:130名
- 5 具体的な対策
 - (1)「授業の充実」を通した「教育の質」の向上
 - (2)豊かな人間力の育成
 - (3)退学者・不登校生の減少対策の推進
 - (4)国家試験・進路指導の充実
 - (5)「委員会制」の充実による学校活性化
 - (6)留学生教育の質の向上
 - (7)「攻めの学生募集」の推進
 - (8)卒後教育・リカレント教育の推進
- 6 地域社会との関係
 - (1)学園理念「地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる」の具現化
 - (2)関係各校, 機関, 施設との連携強化

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1)「授業の充実」を通した「教育の質」の向上
- (2)豊かな人間力の育成
- (3)退学者・不登校生の減少対策の推進
- (4)国家試験・進路指導の充実
- (5)「委員会制」の充実による学校活性化
- (6)留学生教育の質の向上
- (7)「攻めの学生募集」の推進
- (8)卒後教育・リカレント教育の推進

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1
・学校における職業教育の特色は何か。	4	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	4	3	2	1
・各学科の教育目標, 育成人材像は, 学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	3	2	1

①課題

「学校における職業教育の特色は何か」及び「社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか」については、改善してきているが、「学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」及び「各学科の教育目標, 育成人材像は, 学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか」について評価は低下している。

②今後の改善方策

年度始めに, 学校理念, 教育目標等を全体(保護者を含む)に配付し, 説明する機会を持つ。
教職員に対するインナーブランディングを再度進める。
一人ひとりの教職員が理念を共有し, 広報発信できるように研修を行う。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4	3	2	1	地域の医療・福祉を包括的に支援できる教育機関として成長するという岩永学園グループの目的を実現するため、グループ内の社会福祉施設はもちろん、地域の病院、福祉施設、整骨院等の業界との連携を密にし、より実践的な教育を目指した運営方針が策定されている。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4	3	2	1	事業計画は、地域の医療・福祉を包括的に支援できる教育機関となるという学校の運営方針に沿って、毎年度初めに2年、3年後までの見直しをもった具体的な事業計画が示されている。
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	4	3	2	1	学校運営方針に基づき、各種委員会組織を設置し、定期的な部課長・学科長会議および職員会議を開催し、具体的な活動計画を定め、実行している。
・人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4	3	2	1	就業規則により明確に定められている。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4	3	2	1	教務担当の教務部と総務部学務課、財務担当の総務部総務課がそれぞれ整備されている。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	3	2	1	地域自治会への積極的参加、教育課程編成委員会等を通じて、業界や地域社会へのコンプライアンス体制が整備されている。 【教職員アンケート 質問11 2.89】(2.81)
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4	3	2	1	教育課程編成委員会、学校ホームページや、学生募集活動におけるガイダンスやオープンキャンパスなどを通じて、積極的に教育活動等を外部に対して情報公開している。求められている内容について、可能な限りの手段で積極的に外部への情報公開をしている。 【教職員アンケート 質問12 3.42】(3.10)
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	3	2	1	従来から学校内情報システムのネットワークが整備されていたが、現在、より機能を充実させた自社開発の新システムがほぼ完成し、運用を始めている。従来のシステムに比べて、さらに有効に機能している。 【教職員アンケート 質問13 2.63】(2.19)

①課題

各種会議及び委員会は、目的も明確になり、定着しつつあるが、一部委員会については機能できていない。また、情報システム化等の業務効率は依然として大きな課題である。

②今後の改善方策

各種委員会の見直しを行う。
学内グループウェア(KokoroNet)の運用方法について、更に改善をし、業務効率を上げていく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	3	2	1	本校の教育理念に基づき、関連業界とも連携しながら社会に役立つ人材の育成に向けて、実践的な職業教育を意識して教育課程の編成と実施が実行されている。
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき修業年限や学習時間、目標とする到達レベルが明確にされている。
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき体系的なカリキュラム編成を行っている。
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	3	2	1	教育課程編成委員会等を通じてより実践に近い形で教育が行われるよう工夫に努めている。 【教職員アンケート 質問17 2.84】(2.95)
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。	4	3	2	1	臨床実習や介護実習を通して、産学連携による実践的な職業教育がなされている。
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	4	3	2	1	前期と後期の終わりに、すべてのクラスで授業評価アンケートを実施し、アンケート結果を集計し、学校自己評価の評価材料としている。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	3	2	1	専門課程はいずれも職業実践専門課程として認可を受けており、教育課程編成委員会およびその分科会も開き、外部評価を受けている。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	3	2	1	学則および各種規程に基づき、成績評価、単位認定、進級判定、卒業判定の基準は明確にされている。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき、資格取得に関する指導体制、カリキュラムなどが体系的に位置付けられている。
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	3	2	1	国家資格の養成施設指定規則に則り、適切な資格要件はもちろん、臨床指導力も優れた教員を確保している。 【教職員アンケート 質問23 2.58】(2.48)
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。	4	3	2	1	教員の一部は、関連業界との連携を深め実践的な知識と技術を維持するように、臨床現場も業務の中に組み込みながら、教育業務とのバランスをとっている。関連業界とは教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会などを通じて、定期的に現場と学校教員との意識や知識の共有を図っている。
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	4	3	2	1	教員が関連の主要な学会や研修会に参加して、研鑽を積み取り組みをしている。また、新任教職員に対して、全般的な組織理解や指導力向上のための研修を実施している。
・職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4	3	2	1	毎年年に3回全職員による教職員研修会を開催した。その他、必要に応じて教職員を選び適宜、外部の研修に参加させている。

①課題

社会の変化や学生の多様化に対応できる教職員の資質向上が課題である。

②今後の改善方策

教育部における学科間の縦割りについては改善しつつある。今後は、国家試験対策及び低学力対策(退学防止)について、学科の特性を踏まえながら、統一した取組が必要である。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(4) 学修成果

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・就職率の向上が図られているか。	4	3	2	1	業界の信頼もいただき、就職率は各学科とも毎年、100%と高い水準が維持されている。
・資格取得率の向上が図られているか。	4	3	2	1	資格取得率の向上は図られている。国家資格試験の合格率は、全体的に全国平均以上の結果である。 【教職員アンケート 質問28 3.21】(3.05) 【学生アンケート 質問3 3.12】(3.11)
・退学率の低減が図られているか。	4	3	2	1	問題を抱える学生およびその家族とは頻繁に面談を行い、退学率の低減に努めている。 【教職員アンケート 質問29 2.68】(2.95) 【学生アンケート 質問4 2.80】(2.81)
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4	3	2	1	卒業生の業界での活躍の情報を在校生に周知し、学習意欲の向上にある程度役立てている。
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	3	2	1	同門会組織が充実して、卒業生の体験を聞く機会をもっている。同窓会組織のない学科でも、外部講師による講習会を実施の際は、卒業生も広く呼びかけ、キャリア形成の促進に努めている。 【教職員アンケート 質問31 2.74】(2.38) 【学生アンケート 質問6 2.58】(2.69)

①課題

卒業生へのフォローについては課題が残る。
また、いわゆるリカレント教育については、十分な方向性を示せていない。
(特に、今年度は新型コロナの影響で卒業研修は実施できていない)

②今後の改善方策

引き続き、各学科の卒業教育担当者を中心に卒業生のネットワークを広げていく。
各学科において、卒業生講話を授業に組み込み、卒業後のイメージを持たせるようにする。
その他、広報募集媒体においても、卒業生の活躍を取り上げキャリア形成を促していく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(5) 学生支援

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1		
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	3	2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか。	4	3	2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	3	2 1
・学生の健康管理を担う体制はあるか。	4	3	2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	3	2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか。	4	3	2 1
・保護者と適切に連携しているか。	4	3	2 1
・卒業生への支援体制はあるか。	4	3	2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4	3	2 1
・高校・高等専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	4	3	2 1

①課題

学生支援については、概ね改善している。

②今後の改善方策

高等教育無償化対象校としての機関要件を引き続きクリアするとともに、新型コロナの影響を受けている学生については、引き続き速やかな支援制度の利用を促していく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(6) 教育環境

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・施設・設備は, 教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	3	2	1
・学内外の実習施設, インターンシップ, 海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	4	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか。	4	3	2	1

①課題

「防災に対する体制」については, 教職員に改善が見られる一方で, 学生の関心度が低い。

②今後の改善方策

「専修学校遠隔教育活用推進事業」を活用し購入した貸出用タブレットを理学療法科1年生に導入することが決定している。今後のICT教育充実に向けて, 先駆的な取組としていく。
また, 防災訓練については, 引き続き施設(こころのしろ)と合同での取組みを継続していく。

③特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学生募集活動は, 適正に行われているか。	4	3	2	1	高校新卒者の募集にあたって, 入学試験を10月以降に実施しているが, 出願については県の専門学校各種学校連合会での取り決めに沿う必要がある。その他, 学生募集は適正に行われている。 【教職員アンケート 質問45 3.47】(3.24)
・学生募集活動において, 教育成果は正確に伝えられているか。	4	3	2	1	学生募集活動において, 卒業生の就職率、資格試験の合格率、退学率など, 正確に伝えられている。 【教職員アンケート 質問46 3.47】(3.24)
・学納金は妥当なものとなっているか。	4	3	2	1	本校の学納金は, 同分野の他の学校の平均的な水準と同等である。 【教職員アンケート 質問47 3.26】(3.19) 【学生アンケート 質問19 2.52(2.65), 質問20 2.56(2.74)】

①課題

募集活動のデジタル化に対応した変化が, より一層求められている。

②今後の改善方策

(新型コロナウイルスの影響もあり)学生との接触回数が減少していく中で, よりコンテンツ力のある広報素材・媒体の構築に取り組む。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(8) 財務

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1		
・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	3	2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	3	2 1
・財務について会計監査が適性に行われているか。	4	3	2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか。	4	3	2 1

①課題

退学者数は減少傾向にあったが、再度悪化に転じている。
募集活動では、高校生出願は伸びている一方で、社会人が減少しているため入学者数が横ばいとなっている。
また、外国人留学生の入国ができず、見込んでいた売上よりも大きく落ち込んでいるのが現状である。

②今後の改善方策

外国人留学生の入国が以前の水準に戻ることで、財務状況の大幅な改善が見込まれる。
また、日本人学生については、入学者数の確保だけでなく、退学者の防止を、再度、優先課題として、学生数の確保に取り組む。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・法令, 専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4	3	2	1	学校教育法, 養成施設指定規則等の法令に従った適正な運営がなされており, 申請書, 届出書, 学校運営に係る記録等は確実に保管されている。国や県の監督部署の指導調査で指摘された事項は改善されている。
・個人情報に関し, その保護のための対策がとられているか。	4	3	2	1	学生個人調書等の個人記録は施錠できるキャビネットに保管して部外者のアクセスを防止すると共に, 情報の持ち出しを禁じている。全職員を通じて, 個人情報管理意識の向上に努めている。
・自己評価の実施と問題点の改善を図っているか。	4	3	2	1	学校自己評価委員会の下, 各項目に対して, 自己評価を実施し, 各部局, 学科でそれぞれの問題点は具体的に把握し新委員会による横断的な点検と改善も併せて推進している。
・自己評価結果を公開しているか。	4	3	2	1	自己評価結果は学校ホームページ上で公開している。

①課題

個人情報のセキュリティについて課題が残る。
内部監査で露呈した学務処理の不適合性についても課題が残る。

②今後の改善方策

個人情報保護については, 再度必要性及び制度趣旨を周知し管理していく。
学科学務担当者研修を継続して行い, 基本となる法制度の理解から日々の業務につなげていく。

③特記事項

無し

3. 評価項目の達成及び取組状況

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	3	2	1
・学生のボランティア活動を奨励, 支援しているか。	4	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。	4	3	2	1

①課題

本年度は、新型コロナの影響により、ボランティア活動や社会貢献活動はできなかったが、教職員・学生の意識は高い。しかし、参加学生は限られており、今後は学校として一体となった活動ができるかが課題である。

②今後の改善方策

スポーツ系のボランティア活動については引き続き「ココサポ」が担う。
「ココサポ」については、学科単位の活動から複数学科での活動に移行していく。
その他、各種ボランティア活動については積極的に参加し、学園ビジョンの実現を図っていく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(11) 国際交流

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1		
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか。	4	3	2 1
・留学生の受入れ・派遣, 在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	4	3	2 1
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。	4	3	2 1
・学習成果が国内外で評価される取組を取っているか。	4	3	2 1

①課題

留学生の就労管理については、方法が定まった一方で、生活支援や健康管理について課題が残る。

②今後の改善方策

留学生就労管理は継続する。
生活指導については、指導担当者と学科担任との情報共有を更に徹底する。

③特記事項

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和3年度重点目標に対する総括

(1)「授業の充実」を中心に置いた学校経営の推進

①学生の満足感や国家試験・就職試験等の合格率向上も、「すべては日常にあり」の考えで、令和3年度は「授業の充実」を高めた学校経営の活性化を図った。

②計画的な新任教職員研修を含めて、職員の資質向上に努めた。特に、校内での授業参観、模擬授業、公開授業、研究授業等、新任職員に限らず、学校として、学科として取り組んだことは意義があった。
しかし、低学力学生の指導の在り方や非常勤講師等のオンライン授業には課題も残った。

③全体的な評価としては、今年度もコロナ感染拡大の中で、教員の前年度の緊急事態宣言のもとでの経験を活かした「事前指導の成果」が自学自習姿勢や授業への積極的な意識を育てることに繋がった。
今後は、低学力学生や社会人入学者を意識した学びの「自分ごと意識」を持たせる指導と「わかる授業」の研究が急務であると認識している。

(2) 国家試験合格率及び就職率100%達成

①「国家試験は低学年から」を合言葉にして、各学科ごとの「国家試験年間指導計画」に基づいて計画的・組織的な指導を推進した。各学科は、模擬試験を各学科でABCDの4段階評価等結果分析をし、補講等による基礎学力向上対策を行い、定期的な個別面談で激励をした。定期的に校長・副校長による「学科長ヒヤリング」を実施して対策支援、指導支援、指導助言の機会も持った。

②特に、学生には、国家試験、進路等のすべては「自分ごと意識」を持って取り組むことと「自学自習」を中心に置いた生活を求めた。本年度の国家試験結果は、理学療法科95.8%、介護福祉科92%（日本人学生）、スポーツ柔整科83.3%、スポーツ鍼灸科はり師93.75%、きゅう師93.75%であった。
コロナ禍で自分で勉強ができない学生の支援を如何にするかは、次年度の検討課題である。

③学生の低学力化、多様化の傾向にある中で、「自律から自立」に向かわせる指導が不可欠であり、キャリア教育や臨床実習・介護実習の成果を共有し合う研修等の機会設定が必要である。
「学ぶ」→「わかる」に加えて、「できる」→「身に付く」という専門学校での学びの大切さを認識させて、知識段階から知恵段階への教育の推進が必要である。

(3) 留学生教育の質の向上とJLPT(日本語能力試験)4級以上全員合格の達成

①本年度は、留学生の学力差に配慮した習熟度別学級編成、学級ごとの特別補講の取り組み、オンラインでの模擬試験実施、日常的なドリル演習等、学生の実態に配慮した授業の取り組みをしたことで、昨年度に比して成果に繋がった。

②JTPT(日本語能力試験)の結果は、学生数34名(休学者1名は含まない)中、N4以上取得者は28名(N4取得者20名、N3取得者8名)の82%であり、目標に近い結果は評価している。

③今後の課題としては、オンラインシステムの効果的で成果に繋ぐ活用、習熟度別学級それぞれに「わかる授業」の工夫、日本語教員の授業力アップ研修、学生のキャリア支教育や留学生のニーズに応え得る進路先(大学、専門学校)開拓等が喫緊の課題である。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和3年度重点目標に対する総括

(4)委員会制の充実による学校活性化と人材育成

①定例活動(職員会議, 学校自己評価委員会, 教育過程編成委員会, 各種判定会議, 学務調整会議)
安定した活動ができています。担当者も変わり, 後任の育成とともに継続していく。

②総務活動(儀式的行事委員会, 備品管理委員会)

新型コロナの影響で活動が制限されている部分はあるが, 継続的に取り組んでいる。

③教育活動(研修委員会, 入試委員会)

入試委員会については, 高等教育改革(学びの3要素)を加味した総合問題の検討が必要である。

④風紀活動(生活指導委員会, 風紀・倫理委員会, 留学生委員会)

生活指導委員会や留学生委員会については人材育成が進んでいるが, 課題もある。

問題対応型ではなく, 問題発見型組織になるためにも, 委員会の主体的な活動により所管範囲の見直しが必要ある。

⑤広報活動(地域創生委員会, 広報支援委員会)

広報支援委員会については, 3年目を迎え, 業務範囲は拡大している。次年度は, 広報委員会として活動を行う。

地域創生委員会については, 活動の目的を達成したため今年度をもって終了とする。

⑥学生活動(学生自治会, 学生団体)

新型コロナの影響で, 活動が大幅に制限されている。

卒業, 入学等による学生の異動に伴う業務引継ぎはしっかり行う。

⑦担当活動(低学力, 学科事務, 国家試験, 臨床実習, 高齢者医療, 競技者医療)

学科事務担当者研修が始まるなど一部機能に留まっている。

学科毎での活動は継続的に行われているが, 横断的な取り組みとしては課題が残る。

次年度は低学力や国家試験への取り組みを中心に加速させていく。

(5)学校体制として取り組む学生募集ー最低確保学生数130名

①4学科で, 定員140名に対して, 104名, 達成率は74. 2%となる。

②学科ごとに見ると, 理学療法科29名, 介護福祉科37名, スポーツ柔整科21名, スポーツ鍼灸科17名である。

コロナ禍で高校生等の県外進学者が減少していることを考慮すると, 目標に対して課題が残る。

③オープンキャンパス, ガイダンス, 離島を含めた高校訪問等も, 学校体制として全職員で取り組む姿勢が見られた。

入学者予定者の内訳としては, 高校生名85名, 社会人16名, 在校生ダブルスクール3名となる。

1. 学校の教育目標 令和4年度

- 1 ビジョン
地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる
- 2 ビジョンの実現に向けたテーマ
地域社会から必要とされる組織であり続ける
地域社会から必要とされる人材を提供する
- 3 学校経営スローガン
各学科の「専門力を含めた人間としての総合力」の育成
- 4 重点教育目標
 - (1) 授業の充実と国家試験合格率及び就職率の100%達成
 - (2) 自立する職業人・社会人の育成
 - (3) 留学生教育の充実と基本的生活習慣の確立
 - (4) 「個人自己評価」と「学校自己評価」による人材育成と学校活性化
 - (5) 学園体制として取り組む学生募集－130名以上の学生確保
- 5 具体的な対策
 - (1) 「授業の充実」を通じた「教育の質」の向上
 - (2) 自立する職業人への準備教育の推進
 - (3) 退学者・不登校生の減少対策の推進
 - (4) 国家試験・進路指導の充実
 - (5) 留学生教育の質の向上
 - (6) 「個人自己評価制」の導入による学校活性化
 - (7) 「130名以上の学生募集」-各学科「+10名」の達成
- 6 地域社会等との豊かな関係づくり
 - (1) 学園グループビジョン「地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる」の具現化
 - (2) 関係各校、機関、施設等との連携強化

2. 令和4年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1)「授業の充実」を通した「教育の質」の向上
 - ①学生の「意志ある学び」に繋ぐ教員の学生指導力と学級経営力の向上
 - ③学生の多様化・学力低下傾向に対する初期対応策と「わかる授業」の実施
- (2)自立する職業人への準備教育の推進
 - ①「心・技・体」を一体的に捉えた「匠の教育」の充実
 - ②人格形成を目指す人間教育と働きがい・生きがい等職業教育的実践教育の推進
- (3)退学者・不登校生の減少対策の推進
 - ①学生の「自律」から「自立」に向けた支援体制の強化
 - ②個別面談等や行き届いた指導による学生理解と退学者10名以内の達成
- (4)国家試験・進路指導の充実
 - ①国家試験対策
 - 各学科の「国家試験年間指導計画」に基づく計画的・組織的な指導の推進
 - 「学科会」の定例化と「模擬試験結果分析会」と「学力検討会」の開催
 - ②就職対策
 - 臨床(介護)実習と地域交流等の社会貢献活動の推進
 - 本校独自の「導入期教育」と「卒後教育」の充実
- (5)留学生教育の質の向上
 - ①留学生教育の充実と多様な進路先(大学・専門学校・就職等)の開拓
 - ②「生活の記録」と「留学生アンケート」等を通した基本的生活習慣の確立
- (6)「個人自己評価制」導入による学校活性化
 - ①「学校自己評価」や「個人自己評価」による個人のスキルアップと学校活性化
 - ②「組織として機能する学校づくり」と「報告・連絡・相談」の徹底
- (7)「攻めの学生募集」の推進
 - ①高校との関係強化と信頼関係の構築－学校訪問、情報提供、広報啓発等
 - ②学園グループ広報での学生募集－広報委員会を中心にした全職員での学生募集